

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	防府あかり園グループホームいちえ		
所在地	防府市牟礼柳23-22		
電話番号	0835-26-6063	事業所番号	3590600056
法人名	社会福祉法人博愛会		

訪問調査日	平成 20 年 2 月 13 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 25 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人 非常勤 6 人 (常勤換算 8.8 人)	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	1 ~	1 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,510 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
その他の費用	月額 23,000 円		
	内訳 光熱水費 667/日 日常生活費 100/日		

#### (4) 利用者の概要 (2月13日現在)

利用者数	9 名		男性 0 名	女性 9 名
	要介護 1	3	要介護 4	1
	要介護 2	0	要介護 5	1
	要介護 3	4	要支援 2	0
年齢	平均 85.9 歳	最低 82 歳	最高 94 歳	

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 医療法人 浩然会 深野医院 歯科
---------	------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

#### (優れている点)

食事を一緒にすることが生活を共にする第一歩であるという意識を全職員がもたれており、利用者の好みを聞いて職員が献立を立て、ホームの畑で採れた野菜も食材に取り入れて調理し、準備、後片付けなどを利用者と一緒にされています。食事と同じものを一緒にのテーブルで食べ、楽しく過ごされています。家族の面会がほとんど毎日のようにあり(延べ月100回)家族との連携が良く取れていて、利用者の思いの把握や介護計画に反映され、ケアに活かされています。

#### (特徴的な取組等)

事故・ヒヤリはっと等の状況報告書を作成し、3ヶ月に1回事故分類・発生場所・発見時間などを分析し、グラフにして検討して、個別の状況に応じた改善策を話し合い、事故防止に取り組まれています。

### 【重点項目への取組状況】

#### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

初めての外部評価です。

#### (今回の自己評価の取組状況)

全職員で評価された項目もありますが、基本的には管理者が評料を実施し、作成後、職員全員に回覧して共通認識を図られています。評価の中で、記録に残すことの大切さや、職員のストレス解消のことなどに気付き、ミーティングで話し合われています。

#### (運営推進会議の取組状況)

地域代表(神社総代で民生委員)市職員、利用者、家族、管理者、計画作成者のメンバーで、事業所開設後、2回開催されています。理念やホームの状況報告をし、地域代表からは防災対策や地域メンバー拡大などの意見が出ています。

#### (家族との連携状況)

利用者の日々の暮らしぶりを写真にし、金銭出納帳、レシートを毎月送付されています。家族の面会は毎日のようにあり(延べ月100回)、面会時にインフォメーションの冊子に目を通してもらったり、健康状態を伝えたり、意見や苦情を聞き、その場でよく話し合い、要望などはすぐに取り組めるように努力されています。

#### (地域との連携状況)

自治会に加入して、地域の夏祭りなどに参加し、ごみ収集場所の提供や、子ども110番として、近くの小学校に通う子どもたちが、トイレや電話を利用できるようにされています。近所の人から花や野菜の苗をもらったり、散歩中に声かけもあり、交流されています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	開設前に、併設施設(デイサービスセンター)の職員と管理者で「この場所で出会い、一緒に笑い、一生何かを得ていこう」というスローガンを作り、事業所独自の理念としている。地域の人々との豊かな人間関係作りに努力している。	・地域密着型サービスとしての理念の作成
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	掲示し、月1回の職員会議で内部研修を行ない、理念の共有に努め、実践に向けての具体的な話し合いをしている。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	自治会に加入し、夏祭りなどに参加している。ごみ収集場所の提供や、子ども110番として、近くの小学校に通学する小学生がトイレや電話を利用できるようにしている。近所の人から、花や野菜の苗をもらったり、散歩中に声かけもあり、交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	全職員で評価した項目もあるが、基本的に管理者が評価を実施し作成後、職員全員に回覧し、共通認識を図っている。評価の中で、記録に残すことの大切さや、職員のストレス解消のこと等に気付き、ミーティングで話し合っている。	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	地域代表(神社総代)、市職員、利用者、家族、管理者、計画作成者などのメンバーで、開設後2回開催している。理念やホームの状況報告をし、地域代表からは防災対策や地域メンバー拡大などの意見が出ている。	<p>・2ヶ月ごとの会議の開催</p> <p>・メンバーの拡大</p>
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市職員が度々ホームに来訪したり、管理者も市に出かけて担当者とサービスの質の向上について話し合うなど連携を取っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の日々の暮らしぶりを写真にし、金銭出納表とレシートを毎月送付している。家族の面会は毎日のようにあり(延べ月に100回)、面会時にインフォメーションの冊子に目を通してもらったり、職員が健康状態など伝えている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談窓口、担当者、外部機関(1箇所)、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを定めている。面会が多く、面会時に意見や苦情を聞き、その場でよく話し合い、要望などはすぐ取り組めるように努力している。家族アンケートの意見も運営に反映させている。	・全ての外部機関の明示と周知
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤4名、非常勤6名を確保し、利用者の状況の変化や要望に応じて勤務の調整に勤めている。職員の急病や急な休みのときは、職員の勤務交代で、緊急時には、主任、管理者で対応できるよう柔軟な体制をとっている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設後の異動や離職者はない。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修を月1回、計画に沿って実施している。外部研修は勤務の一環として、参加の機会を提供しているが、参加している職員は少ない。個々の段階に応じた研修計画はない。	・外部研修へ全職員の参加 ・個々の段階に応じた研修計画の作成
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入している。管理者は他事業所との交流や勉強会に参加し、サービスの質の向上の取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	9名中、8名が隣接のデイサービス利用者の入居であり、職員とも顔なじみの関係ができている。納得しないままの利用者には、家族と一緒に泊まるなど、協力を得て、徐徐になじめるようにしている。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	調理、盛り付け、配膳などの食事の支度や、畑づくり、外出など一緒に行なうなかで、職員も利用者に関わりながら、支えあい、一方的な介護にならないように配慮している。	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々の関わりの中で、会話や行動から利用者の思いや意向の把握に努め、個人記録をつけ検討している。把握が困難な場合は、家族アンケートによる家族からの要望や、家族と相談したり、アセスメントにより本人本位に検討している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	家族からは面会時や家族アンケートで意見を聴き、利用者からは日々の関わりの中から聞き取り、月1回開催するケアカンファレンスで、職員の気付きやアイデアを反映しながら、利用者本位の介護計画を作成している。	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	月に1回評価し、半年に1回の見直しや、状態に変化があるときなど必要に応じて見直し、現状に即した新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	受診、通院、理美容院への送迎や付き添い、外泊時の車椅子の貸し出し、墓参、レストランへの外出など、個別の要望に応じて柔軟な支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院である地区にある医院を、本人、家族の同意を得て、利用者のかかりつけ医としていることで、受診、往診など適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族と契約時に退居にあたっての条件について話し合い、同意を得ている。場面場面で話し合い、かかりつけ医に相談し、ホームでの終末期のあり方について、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	排泄時の声かけに配慮し、人前での利用者の間違いや失敗を指摘せず、さりげなくフォローするなど、利用者を傷つけないよう言葉かけに注意している。個人記録は保管し、取り扱いに気をつけている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	おおよそ1日の流れは決まっているが、起床は自由で、日々、その時々で、利用者に合わせて支援をしている。食後の晩酌や、外食の要望に応じたり、散歩や買い物など一人ひとりの思いやペースを大切に、その人らしい暮らしができるように取り組んでいる。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みを聞いて、職員が献立を立て、ホームで作った野菜も食材に取り入れ調理し、準備、後片付けを一緒にしている。職員と利用者は同じテーブルで同じ食事を一緒に食べて楽しく過ごしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日、昼食後から夕食前まで可能であり、利用者の意思を確認し、状況、タイミングに合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	テレビ視聴、カラオケ、絵手紙、日記、調理、盛り付け、後片付け、畑づくり、洗濯物干し、たたみなどの場面をつくり、楽しみごとや気晴らし、生き甲斐に繋がるよう支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、ゴミ捨て、買い物、畑づくりなどの日常的な外出の支援をしている。外食やショッピングなどにも出かけている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、内部研修で勉強し、スピーチロックにならないように気をつけており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	なぜ鍵をかけない取り組みが必要なのかを職員で話し合い、日中は鍵をかけていない。運営推進会議を通して、地域の人へ協力を働きかけている。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	状況報告書(ヒヤリはっと・事故)に記録し、3ヶ月に1回分析、検討し、改善策を話し合い、個別の状況に応じた、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備え、主任、管理者への連絡体制もできている。応急手当や初期対応の研修や訓練は全職員で行なっていない。	・全職員が対応できるように救急救命法の研修の実施 ・定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災避難訓練を1回実施している。避難場所まで利用者は散歩している。スプリンクラーの設置や非常食の備蓄をしており、地域へ協力の働きかけもしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者の薬の情報(目的、用法、用量、副作用)をファイルし、職員は理解している。その都度手渡しし、服薬を確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで、個々に応じた口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯など一人ひとりの状態に応じて、清掃、消毒、保管の支援をしている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	給食日誌をつけて、好みや形状(刻む、柔らかくする)バランスを考えた献立を作っている。食事、水分量を把握し、一人ひとりに合わせた支援をしている。	・栄養士による助言
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホーム内の温度や明るさは適切であり、リビングから眺められる、畑、田んぼ、山々は、季節の移り変わりが感じられ、調理の音や匂いには生活感があり、テーブルやソファなど一人ひとりの居場所で居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、ベット、鏡台、生活用品など使い慣れたものを持ち込み、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。ベランダがあり、洗濯物を自分で干したり、取り込めるようにしている。居室には洗面所やトイレがある。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人博愛会 防府あかり園グループホームいちえ
所在地	山口県防府市牟礼柳23番22号
電話番号	0835(26)6063
開設年月日	平成19年3月1日

## 【実施ユニットの概要】 (1月1日現在)

ユニットの名称	防府あかり園グループホームいちえ		
ユニットの定員	9名		
ユニットの利用者数	9名	男性 0名	女性 9名
	要介護1	3	要介護4 1
	要介護2	0	要介護5 1
	要介護3	4	要支援2 0
年齢構成	平均 86.9歳	最低 82歳	最高 94歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	基本的に管理者が自施設の取り組み等について評価を行った。直接支援の項目については介護職員が評価した。N98～N110のサービスの成果に関する項目については職員全員でそれぞれ評価し、それをまとめた。自己評価表を作成後、全員で回覧し、自らの取り組みに対しての管理者の評価やできていること、これから取り組みべきことの共通認識をはかった。自己評価であると共に今年度の反省や来年度に向けての方針にもなっている。その上で外部評価を受けさらにサービスの質の向上に努める。
評価確定日	平成 年 月 日

## 【サービスの特徴】

利用者や家族との関係を第一とし、気軽に話をしてもらえぬ雰囲気作りに努めている。

「この場所で出会い(一会) 一緒に笑い(一笑) 一生何かを得ていこう(一得)」という意味をこめて施設の名前を「いちえ」としている。

住宅地の中にあり、近所にスーパーや小学校、公民館など地域の中の社会資源が利用しやすく、同地区の方の入居が多い為、家族の方も気軽に立ち寄り1ヶ月平均の面会者数が100名を超える。月1回以上のドライブや外食、散歩や買い物など社会との関係性を切らないようにしている。畑がありそこで野菜等作り、収穫の喜びやそれを皆で味わったりしている。一人ひとりの居室も広く、これまで使用していた家具など持ち込んでいただきその方に合った空間にしている。協力病院について同地区の個人開業医院に依頼し、受診しやすく緊急時には往診もある。開設してまだ1年たっていないのでまだまだこれからの施設であるが職員一同利用者、家族の想いに添えるよう取り組んでいきたい。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組み 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>開設間もない為、まずは、よりその理念に施設が近づいているか、方向は間違っていないかという具体的なことを毎月の研修で確認している。しかし言葉としての理解はあるが、本質的な理解はまだまだなので継続して研修を行っていききたい。</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>月1回の内部研修だけでは意識の共有が難しいので、それ以外の話し合いの場を設けたい。</p>
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>職員自らが気付けるように取り組んでいるが、伝わりきれないこともあるので、繰り返し他の研修を通じて本質を明確化していきたい。</p>
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>今はまだ管理者主導でサービスの質の向上に向け取り組みを考えているが、今後は介護スタッフの方からも取り組みたいことや自身のケア観を発表してもらい、皆の意識の共有や意見の出やすい雰囲気作りを目指したい。</p>
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>今後は小中学校区全域に認知してもらえるよう、地区の行事への積極的参加や「いちえ」運営推進会議のメンバーの拡大など行い、また地域の勉強会などにも参加し、地域の一員であると認められるよう取り組んでいきたい。 (子ども110番の家やゴミ収集場所の提供等)</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>災害時に協力していただけるよう地元の消防支所には話しができているが、今後は地元消防団の方とも関係を作り、いざというときの体制を整えたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		今後はただ受け入れていただくだけでなく、軽度の認知症の方なら在宅でも生活できるシステム作りをしたい。現在当ホーム入居中の方でも支えがあれば自宅で生活できるという基盤作り。そのためにはまず施設を持つ専門性を活かし介護教室や相談受付など積極的に行うことからはじめ次につなげたい。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		まずは「いちえ」内での入居者の生活を考えることで精一杯だったが、今後は入居者の生活圏の拡大の為に地域に向けて上記のようなことを発信していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		今後は定期的な自己評価や外部評価を受審し、第三者からの助言を活かしながら自己研鑽に努めると共に、利用者の方の生活の満足度を高める為の職員の意識の持ち方を明確化したい。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		今後運営推進会議のメンバーを増やし、地域の拠点となるよう、会議の開催頻度を高めたい。(きっちり2ヶ月に1回)
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		市内グループホームのサービスの質の向上について、行政、事業所一体の勉強会や実践の発表、縦横のつながりが持てるよう協力していきたい。
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		今後はなぜそういう制度があるのかという、本質的なところから研修を行ってほしい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		自らの意識の持ち方もさることながら、職員間での注意ができる雰囲気づくりや、繰り返しの研修を行っていき、認識の明確化をはかりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	「契約というのは対等の立場で行われるものであるが、施設の場合、利用者の情報はこれでもかというくらい得るが、施設からの説明は少ない。これでは対等の立場とは言えない」という話を聞き、このことを常に頭に置き、家族からの想いや質問についてはこちらから時間を切るようなことはせず何時間でも応えるようにしている。	施設の概要や料金などインフォメーションの冊子を作り、説明を行っている。入居に際しても空きが出たらすぐ入居ではなく、本人、家族や親戚など再度見学に来てもらったり、説明をしないおしたりと納得のいくまで話し込み入居するかどうか決めてもらっている。
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に苦情受付や外部(第三者委員や運営適正化委員会)についての説明を行っている。また利用者は自分の想いを上手く伝えることができない方が多いので、日々様子について個人記録をつけ想いに添えるよう、好きなこと、嫌いなこと等、気付けるよう努力している。家族についてはアンケートを出し、本人(利用者)のよりよく暮らす支援として何が必要なのか家族の想いを聴いて参考にしている。それらが利用者や家族の満足につながっているかどうか現在進行中である。	どの利用者の家族も面会が多いので想いや要望など話がよくできる。今後も面会に来やすい雰囲気作りに努めたい。(挨拶、空間の工夫等)
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	今入居者が「いちえ」でどのような生活をしているのか、日々様子を写真にして家族へ渡している。金銭管理については一ヶ月ごとに納金表とレシートをセットにして、利用料請求時に一緒に送付している。また面会時にインフォメーションの冊子に目を通してもらっている。	体調不良時などすぐさま連絡をしている。どの家族も面会が多く、日頃の「いちえ」の雰囲気や状況をよく知っておられるので話がしやすい。
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	契約書、重要事項説明書に明示し、説明を行っている。今のところ情報開示の要求はない。	情報開示の手順等作成しているが開示要求がないので実務はない。そのため職員の意識も薄い。記録について研修し、事実をわかりやすく書くということも意識していきたい。
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時、積極的に意見を聴くとともに、現在の状況や今後について話している。またその場では言いにくいこともあるのでアンケートとして利用者の想いを家族の方に代弁してもらっている。契約書や重要事項説明書に苦情窓口や第三者委員など明示して説明を行っている。利用者、家族からの要望についてはできることはすぐに取り組み、その報告を家族にしているが、ケース記録や連絡帳にしか文書が残っていない。	今後は要望等あった場合、職員間でより共通認識を確実なものにするためにケアプランの変更を行い、文書化、家族の確認、そしてその実践や評価をケース記録へというシステムを作りたい。
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月例会議において意見の吸い上げを行っている。車椅子や備品の要求、勤務シフトや個別のケアについて聴く機会を設け、サービスの質の向上へ反映する努力を行っているが、開設間もない為、運営については職員個々のレベルアップや意識の共有化が急務であり管理者主導になっている。	今後は勉強会等も職員より企画を出したり、月例会議の前に職員(パート含)と話し合いを行っているが、それについても、きちっとした議事録を作成し、運営に反映させたい。(なぜそれをするのかの明確化)
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務シフトについては職員皆で話し合って決めた。利用者の急変時には超過勤務手当で対応したり、地元地区職員が6名いるので応援をお願いしている。緊急時には時間帯に関わらず、管理者が応援に来る為、連絡体制を明確化している。	緊急時について管理者が他の職員の調整を図っているが、システムとして最小限の指示で職員の応援体制が取れるよう検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		利用者や家族と関係ができてきたので、できる限り、開設当初からのメンバーで協力しながらやっていきたい。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		今年度はまず全員の意識の共有や「いちえ」の方針を第一に考えて行ってきたが、来年度に向けてスキルアップの為の計画を立て、職員個々に目標を設定したい。
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		男性職員が管理者以外いないので男性の職員の配置も検討していきたい。
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		今後は「山口県宅老所・グループホーム連絡会」の研修や交流会に積極的に参加したり、他施設との交流や、意見の相互交換などの場を設定していきたい。
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		休憩が別の場所で取れるように一人ひとりが入居者の状況をしっかり把握し、職員同士も信頼して任せ合えるよう力をつけたい。又他の施設の人とも交流をもつ機会を設け、悩みや想いを話し合えることができるようになりたい。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		今後専門性を高めたり、他の施設との情報交換やネットワーク作り、又他の施設に仲間ができることによって、自身の頑張りにもつながるように、外部研修の参加を増やしたい。
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		職員が意欲を持って働けなければ、利用者の方へのサービスの質の向上にはつながっていかないということを再度意識しながら日々取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談時、家族だけでなく本人も来所していただき、施設の中の様子や居室を見てもらったり、心配なことはないか聴いている。何回か続け、感覚的にも安心できる場所であるという意識付けができるように一緒にお茶を飲んだり、他の利用者と話をしてもらっている。	今までは記録等残していなかったが、今後は来訪者についての記録を残し、入居時にスムーズに受け入れができるようにしていきたい。
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族についても主たる介護者だけでなく、日を改めて他の家族や親戚等にも見学を依頼し、どのような場所で生活するのかということの共通認識をもってもらっている。その都度説明や困っていることなどを聴いているいるが記録としては残していない。	上記対応に同じ。
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在どういう状況であり、何の支援が必要なのかを話し合っている。たとえばグループホームの利用がいいのか、特養なのか、デイの利用は、ショートステイはなど、場合によっては他の小規模多機能施設や居宅介護支援事業所などの情報も提供している。しかしその際の記録等は残していない。	ほとんどのの方が入居申し込みをされていき、じっくり話をされていくので、誰にどういった話をしているというのは管理者はわかっているが、他の職員についてはそれが口頭でしか伝わっていないので、今後は文書化して共有を図りたい。(入所申込書とは別に相談受付記録簿という形で考えていきたい)
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	定員9名中、6名の方が施設の住所と同地区の方であり、隣接のデイサービスの利用があった後入居された方なので、土地勘や職員との人間関係もあった。また本人、家族に見学や体験に来てもらい入居につなげている。	入居に際して本人や家族納得の上での入居をすすめている。こちらの部屋が空いたからといってすぐすぐの入居はすすめていない。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員と利用者という関係ではなく、人と人としての関係を築くことがグループホームの大きな役割であると考えている。そのため生活を共にするという事は食事を一緒につくったり食べたり、挨拶やありがたうなど互いに感謝できる関係であるということを内部研修を行い意識している。しかしながらまだ利用者に対し指示的な発言をしまったりと充分ではない。	生活を共にすることはどういうことかということを中心に意識し関わっていかねば、馴れ合いで関わったり、ケアではく業務になってしまうので、継続して研修を行い意識付けを徹底していきたい。
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居時に一緒に考えていきたいと思いますし、連絡を密にとっている。面会時、気になることがあったらすぐ話してもらっている。こちらからも電話で伝えきれないことを面会時に伝えたりと関係は良い。	外へ出かけていったり「いちえ」での様子を写真にとって渡したりと閉塞感のないように心掛けている。継続していきたい。
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	里心がつくから面会には行かないほうが良いのではという家族に対しても、無理でなければどんどん面会に来てくださいと話している。面会も負担にならないように絶対に来てくださいというのではなく気軽に立ち寄れるように、その雰囲気作りに努めている。	施設内の飾り付けや職員の対応など、一方的な伝え方や、家族に全判断を委ねるようなことはしないように心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		当施設の場合、面会が多いほど開かれた施設であり、施設外との関係が保たれ、また来やすい雰囲気にあると考える。反対に少なければその逆であるため、面会者数を施設全体と利用者別に月ごとにチェックしその目安としている。継続して行いたい。
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		重度認知症の方について安心感や安定につながる為、楽しい・嬉しいといった感情が持てるよう働きかけたい。その方が安定すれば他の利用者との関係や雰囲気等維持できるので、第三者が見て一人だけ孤立しているという状態を作らないようにしたい。
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		グループホームは在宅の施設であるということから家族とのつながりは切ってはいけないという思いがある。在宅で介護されてきた家族にとって施設入居の際の複雑な想いを理解するよう努め、退居後であっても関係性は残せるよう取り組みたい。(病院面会や自宅訪問、相談など)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		ケアプラン作成の際やカンファレンス時、本人の希望を聞いたり、面会時に家族の希望を聴いているが、今後はできるだけその会議に本人、家族が入れるよう時間や曜日を工夫したい。
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		面会の方が多いので色々な話を聞くことができるが、そのことで職員が利用者の状態像について把握しているつもりになり、皆知っていることだからといって口頭だけの伝達にならないようにしっかりと連絡帳等活用し、記録に残すということを引き続き徹底していきたい。
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		あきらかにいつも違う行動や体調の変化は皆わかるが、ちょっとした変化となると職員の意識の持ち方で気付けないことがあるので、繰り返し研修等で意識の持ち方を勉強していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の希望を聞き計画を作成している。特に日々気にかけること(精神面・身体面)の共通認識を図った上で利用者の希望を支援できるように計画している。まずできることから目標を掲げ行っているが重度の方の場合など計画が職員の行動計画になっている。	利用者の想いに添う為に、まずは職員がこう働きかけるとい計画ではあるが、計画の主語は職員ではなく利用者でなければならないということを研修等通じてしっかりと意識していきたい。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族の面会が多いので、ケアの見直しや変更の場合、その際に話し合いながら行っている。日々の変化や対応について、その都度家族と連携をとりケアを行っているが、それを連絡帳等を通じて職員間の共有を図っているため、随時計画書そのものを変更することが不十分である。	当たり前のことであるが、今後は職員間の共有の強化や次のケアにつなげる為の根拠としてもしっかりと計画書自体の変更を行い残していきたい。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子について体重や血圧、体温、脈拍数などのバイタルチェックや食事、入浴、排泄なども記録に残し、体調不良時や受診の際に活用している。個別記録をつけることにより利用者の生活パターンや人物像をとらえるよう努めているがまだ不十分である。	なぜ記録が必要なのか、内部研修を行い意識の共有を図っているが、まだまだ徹底できておらず、連絡帳に残すもの、業務日誌にあげるもの、個人記録にあげるもの、その優先順位が職員によってまちまちである。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	隣接のデイサービスの行事に参加したり、受診時の送迎、入退院時の送迎、外泊の際の車椅子貸し出し、体調不良時の受診手続きや往診の依頼等家族の要望については出来るだけ応えるようにしている。しかし地域の方に対する事業所の機能を活かした支援というものはまだできていない。	利用者に対する地域に根ざした取り組みは少しずつではあるが行っているが、事業所自体が地域に根ざすという取り組みはまだできていないのが現状であるので考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域については必要があれば先方より力を貸していただいているといった現状。地域の関わりについてはまだまだ受身の状態であり、こちらから働きかけて、その結果協働できているといったわけではない。	運営推進会議のメンバーの拡大や頻度を上げ、連携しやすいシステムを作りたい。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	グループホームがどんなところかということ家族の方はわかっているので、その友人など一緒に面会に来られどんなところか話している場面を見る。ただ施設の閉塞感というものもなくす意味での開放の取り組みはあるが、機能の開放としてはトイレや電話を貸す程度でまだまだ地域貢献できていない。	地域における勉強会等、開設前は講師として参加していたが、開設してからはまだないのでまず依頼が来るようこちらから民生委員や老人クラブを通じて働きかけをしていきたい。
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域の美容院に行けない方については、移動美容室に来てもらったり、家族の希望で遠方の病院に受診する場合は福祉タクシー等利用してもらっている。他の介護支援専門員とは連絡は取れているがそれが直接的な利用者の支援にはなっていない。	入居の際はその担当介護支援専門員と話をするが、入居してしまっからは先方からの連絡は特にない。こちらからも積極的な関わりをしていないので、もっと外部の介護支援専門員もカンファレンスに参加してもらえよう働きかけたい。(在宅のサービスとしての意識を持つ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域のネットワークを構築する為に、まず地域包括支援センターとの連携を働きかけていきたい。
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		協力病院医師が非常に話しやすく、相談も時間をとってくれている。家族への説明や他の病院への入院についても連絡調整してくれている。
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		引き続き協力が得られるよう、利用者の「いちえ」での様子など密に連携をとっていきたい。
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		現在、職員全員が介護職員であるが、看護職員の配置も検討したい。
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		連絡帳や個人記録に、お見舞い時の様子はあげているが、わかりやすく家族にも見ってもらえるような退院計画書をさくせいしたい。
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		体調不良や段階的に重度化されていく利用者の家族に、終末期のあり方についてや、もしものときの話し合いは行っているが、まだ「看取り」を経験していないので家族との連携をしっかりとしていきたい。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		終末ケアについての考え方を職員共通認識が持てるよう勉強会を行ったり、医療との連携や家族の想い、利用者の方の望むことなど整理していきながら「いちえ」での終末ケアの対応を明確化させていきたい。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報やプライバシーの保護については規程を設け対応している。特に排泄についてはその対応によっては利用者が傷つき認知症のレベルがすすんでしまうこともあるので特に気を配っている。しかし声かけ等についてはまだまだ支持的な場面がある。</p>	<p>勉強会やその場面場面で、個人情報保護とプライバシーの保護の違いを認識し、ケアの場面や生活の場面でのプライバシーの保護(空間的・心理的)の意識の共有化を図りたい。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>まず利用者を知ることからはじめています。開設して1年たっていないので現在「その人を知る」という取り組みの中で、利用者の希望や好みを見つけられるよう努力している。少しずつ利用者のことがわかってはきていますが、生活場面の中の支援であり、生きがいや精神的な深い部分にはたどりついていない。</p>	<p>職員にとって利用者の願いを実現することや想いに添うことが一番大事なことであり、そのためにはどうしていけばいいかという研修を行ったが今後も継続して行いたい。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事全般について出来ることはしてもらっている。居室の清掃やトイレなどは一人だけではできなかつたり不充分であったりするので後からもう一度職員が掃除を行っている。利用者の方が手元においておきたいものについては、家族と連絡をとり利用者の方に管理してもらっている。タンスにマークをつけたり間違っしてしまい込んだ物もそっと元に戻したりプライドを傷つけないようにしている。</p>	<p>生活場面についての出来ること出来ないことの把握だけでなく、今後は趣味や生きがい等についての出来ることを引き出していきたい。</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>毎日の入浴や食後の晩酌など、又起床の時間も自由でその方これまでの生活リズムをくずさないようにしている。外泊や面会も事業所としての決まりはあるが、時間帯等こだわらず来れるときに来てもらい一緒に時間を過ごしている。</p>	<p>一人ひとりのペースを考えながら支援を行っているが、まだしっかりと把握できていない。特に家で何もしていなかったという方については何か生きがいとなるものを探していきたい。入浴も毎日行っているが夜間等も対応できるようにしたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容にかぎらず外出については利用者が行きたいと言われた場合には一緒に行っている。服装等についても外出するときには、おしゃれをしたり、外出するまでの高揚感も大事にしている。しかし、その服装が季節はずれであったり等ある場合、プライドを傷つけないような声かけをし選びなおしてもらうことがまだまだ上手いかなことがある。</p>	<p>身だしなみに限らず利用者の自己決定を尊重するうえで、本人の価値観による選択でない場合、例えば認知症のためわからなくなつたりあえずこれを選んで(スカートの上から何枚もズボンをはいている)など、その際に利用者のプライドを傷つけないように周りの方に気付かれないような声かけや着替えなど、興奮されるので自己決定だからそのままにしないで関わりの中から上手な対応を見付けていきたい。</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事を一緒にすることが生活を共にすることの第一歩であるという意識のもと、できる人には準備や片付けも一緒に行っている。食事と同じものを一緒にテーブルで食べている。献立については職員が決めている。利用者の方が献立を考えるということはしていない。(ただ、何が食べたい等の意見は聴いている)</p>	<p>食事の準備については職員が主体で利用者には手伝ってもらうという感じなので、今後は今のところ難しいが月に1日だけでも献立から利用者の方に作ってもらい、それを職員と一緒に準備することをしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		喫煙については喫煙コーナーを設けているが家族しか利用していない。利用者で喫煙者が入居して来た場合はベランダ(ウッドデッキ)にコーナーを設ける予定。
63	<b>気持ちのよい排泄の支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		利用者それぞれの排泄間隔や回数などを把握し、訴えることができない利用者もなるべく失禁をなくし、トイレで排泄できるよう支援していききたい。
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		現在では夜間入浴の対応が難しく実施できていないが、必要時には実施できるような体制をつくっていききたい。
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		これまでやってきたことや趣味などを活かせる役割作りを行っているが、今後は昔はやっていなかった、又やりたかったができなかったといった「やってみたかったこと」なども利用者、家族から聞きながらその実現を支援していききたい。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		日々の生活品費やお小遣いについては家族より預かり施設で管理しているが、家族と相談しながらお金を持ちたいという方には持ってもらっている。
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		天気の良い日は散歩に行ったり、買い物やゴミ捨てなども一緒に外へ出かけている。車椅子の方でも天気の良い日は散歩したりドライブなどしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		利用者の生活圏の拡大やなじみの関係性を断ち切らないように今後も家族と協力しながら、施設の中だけの生活にならないようにしたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		面会の人数が多いので引き続き来てもらえるように空間作りや雰囲気作りを心がけ、面会の数が減ること=施設の雰囲気が悪いということをしかりと意識していきたい。
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		上記を徹底していきたい。
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		今後は家族と一緒に楽しみの場面を多く作るという考えで、土日に家族参加を意識した行事(バーベキュー等)検討していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		スピーチロックについての共通認識がまだまだ徹底できていないので、内部研修やミーティング、又そういった場面があった場合、その都度注意しあい、利用者の方の生活の満足度を高めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75 (28)	<p><b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		<p>単に鍵をかけるかけないの前に、利用者の生活を満足あるものにするためにはどうするのか、外へ出て行くという利用者の方はなぜ外へ出ようとするのか、その理由や想いを考えていき、ただ外へ出ようとするから付き添って一緒に散歩したり、ドライブしたりするだけでなく、「いちえ」のなかでの日々の生活に不快はないか、満足されていないのではないかということに目をむけていく取り組みを継続していきたい。</p>
76	<p><b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		<p>夜間はほとんど食堂にて記録を書いたりしながら利用者の見守りを行っている。</p>
77	<p><b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		<p>危ないからといって物品や飾り等、別の場所で保管していたら、空間ががらがらになり殺風景になってしまうので特に別の場所での保管や取り除いたりしていないが、危険であるという意識はしっかりと持っていたい。</p>
78 (29)	<p><b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		<p>現在データを収集し事故の分析を行い対応しているが、今後その具体的な対策をはっきりとさせていきたい。(データをまとめた報告書の作成)</p>
79 (30)	<p><b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		<p>今後もマニュアルにそって連絡体制はしっかりしていきたいが、職員のスキルアップや利用者の生活の質の向上や安心の為に必要に応急手当等の勉強会を行いたい。</p>
80	<p><b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		<p>誰にでも起こりうる事故(転倒、誤嚥等)については対応策や再発に向けて検討しやすいが、精神的なものから来るもの(拒食、異食、暴力、徘徊等)について対応に苦慮しているので、もっともっと利用者を知る努力し、利用者の方が安心して暮らせるよう取り組んでいきたい。</p>
81 (31)	<p><b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		<p>場面を想定しながら地域連携体制を強化するよう取り組みと共に訓練等もしっかり行っていきたい。</p>
82	<p><b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>		<p>利用者はもちろんのこと家族の信頼を得、お互いに話しやすい関係づくりを引き続き行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、体温・血圧・脈拍数を測り、表にしている。体調不良の場合は、すぐに病院へ連絡して指示を仰いだり、受診したりしている。家族にも連絡し、状況説明を行っている。	体調の変化等を見逃さず、早期に気付くことができるよう日々利用者一人ひとりを意識していきたい。
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	各利用者の服用している薬の一覧表はまとめてファイルしている。協力医院へ毎月1回以上の受診を行い、日々の様子や体調について報告している。受診結果で薬の変更等あれば、全職員に連絡して様子観察すると共に、家族にもその都度報告している。服薬については職員で管理し、服薬時には一人ひとりに手渡して服用確認を行っている。(利用者によっては口の中へ投与したり、粉状にして投与するなどの対応をしている)	服薬のファイルは作ってあるが、把握・理解はまだ十分でないため勉強会を開くなどして薬に対する知識を高めていきたい。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	予防としては水分補給を促して実施している。また、日中はホールで過ごしてもらうことによって活動を増やしている。排便状態は、介助を行っている利用者は排便確認し、記録をつけて把握しているが、自立している利用者については居室にトイレがあるため把握できない。その方については口答で確認したり、体調変化に気を付けるようにしている。	
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	要介助者については毎食後に居室の洗面所へ誘導して実施しているが、自立している利用者は確認できていない。義歯は夕食後の清掃後に預かり、薬で洗浄している(現在3名)。また、歯ブラシ・コップについても夕食後の口腔ケア終了後に預かり、夜間消毒・乾燥を行っている。	自立している利用者についても、歯磨きの状況を確認して確実なケアができるよう支援していきたい。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	給食日誌をつけて、バランスを考えた献立を作成するようにしているが、カロリー計算は実施していない。一緒に食事をする事で各利用者の摂取量・摂取状況も把握できるので、各自に合った量を盛り付けたり、刻みにするなど形態を変えたりして個別の対応を行っている。摂取量の低下が見られた時は記録に残して好みの物を別に用意したり、体調管理に気を付けるようにしている。	系列施設の管理栄養士に指導を受ける機会を設け、偏りのない栄養摂取ができるようにしていきたい。
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	それぞれにマニュアルを作成して学習しているが、生活の場という想いが無いため、感染症に対する意識が低い。(例えば、家でも特にしないことをここでするのか。消毒やマスク等)	生活感は損なわれず、なお且つ命を守る。少人数とはいえ集団でいるということの認識を持ち、しっかりと勉強をしていき、正しい実践につなげていきたい。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は献立作成者が適量購入しているので、在庫が溜まることはあまりない。余った物については朝食で利用もしている。衛生管理面では、タオル・台拭きなどの洗濯はとり決めてあるが、まな板の漂白等については随時実施している。	衛生管理面で流し台や調理器の消毒も、担当者や時間等を取り決め、必ず実行するようになりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	手作りの花壇を作ったり、側溝まわりにプランターを置き、季節毎の花を楽しめるようにしている。又、ベンチを置いて休憩できるようにしている。近所の方も苗をくださったり、犬の散歩に立ち寄りしている。	面会に来やすい、入りやすい雰囲気づくりに努めたい。ただ、花を飾ったり、椅子を置いたりというのではなく、そこにもてなしの心を感じてもらえるように配置や花の種類、草ひきなど引き続き行いたい。
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	視覚的にも感覚的にも、居心地の良い空間になるよう、飾りや家具など無機質な感じを出さないようにしている。	家族や面会者の意見を聞き、工夫は多くしているものの、利用者の方が気に入るだろうことを推測してのことなので、職員の好みにならないようにしていきたい。
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやソファ、ベンチなど居場所づくりを行っている。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで自宅で使っていたもの、馴染みのあるものを持って来てもらうようにしている(タンス、ベッド、飾り等)。季節ごとに家族と一緒にタンスの中のものを入れ替えを行ったり、本人にとってなぜこれが必要なのか家族に聞きながら工夫をしている。	引き続き家族と相談しながら、居室が落ち着いた場所であるように支援していきたい。
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入れ替えや室内温度の調整について、特に浴室など注意を払っている。又、居室についても利用者の方と空気の入れ替えを声かけしながら行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	居室に洗面台とトイレがあったり、台所の高さも利用者と一緒にできる高さになっている。畳のコーナーも昇降しやすい高さで高いということが分かるように、単に危ないからと低すぎないようにしている。	環境や設備はそれを利用する人の意識がないと何故そこがそうなっているのかが分からず、宝の持ち腐れになってしまったり、利用者にとって不利益なものになるので、ケアあつての設備というものをしっかり意識していきたい。
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	環境による混乱や失敗で多いのが他の利用者の居室へ入ってしまうということで、そのために居室ののれんの色を変えたり、何度も確認しながら居室へ誘導し、感覚的に場所を覚えてもらうことをしている。	まず混乱や失敗の原因を考え、その時々合った声掛けを徹底していきたい。
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	周囲に芝をはり、日向ぼっこや歩けるようになっている。また、畑が5つあり、野菜や果物を一緒に作っている。	定期的な環境整備を行い、気分よく生活してもらえるようにしたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない